

コミュニケーション

No. **99**
2020.3月号



Contents

- P2-3 こんにちは!あかちゃん
移動動物／訃報／飼育動物数
- P4 園長挨拶／エンリッチメント大賞2019受賞
- P5 全天候型の新しいサル舎を建設中
- P6 2年目を迎えた「大森山アートプロジェクト」
- P7 大森山もりもりコンテスト
- P8-9 飼育レポート／動物病院から
- P10-11 イベントレポート／今後のイベント
- P12 飼育日誌／お客さまの声／かたばた通信



秋田市大森山動物園

あきぎん おもりの森

写真:コツメカワウソの親子

こんにちは！あかちゃん

8月以降に大森山で生まれた赤ちゃんをご紹介します。



だまこ(11月9日)

インドクジャク

8月10日にクジャク展示場で2羽のヒナがかえりました。これまでカラスに卵を割られたりしていましたが、鳥インフルエンザ対策で設置した網のおかげで、約30年ぶりに自然孵化に成功しました。



クジャクのヒナと母鳥(9月5日)

コツメカワウソ

8月18日に当園で初めてコツメカワウソの繁殖に成功しました。わらびとキトラにとっても初めての子どもで、名前は「だまこ」です。子育て奮闘記は8ページの飼育レポートをご覧ください。

アムールトラ

9月29日に当園で11年ぶりとなるアムールトラの子どもが誕生しました。2008年にはアルルとミルルの2頭でしたが、今回は4頭が生まれ、お母さんのカサンドラは一生懸命子育てをしています。詳しくは8ページの飼育レポートをご覧ください。



アムールトラ4つ子(11月21日)



レイアと子ども(11月22日)

アビシニアコロブス

13年ぶりの繁殖です。アビシニアコロブスはサル舎の新築工事に伴い、10月30日にサル舎から動物病院に引っ越しました。そのときは誰もレイアが妊娠していることに気づきませんでしたが、11月12日にレイアが白いものを抱いているのに気づき、よく見たら子どもであることがわかりました。すくすくと成長しています。来年のサル舎完成後にお披露目します。

このほか、ヨーロッパフラミンゴ、チリーフラミンゴ、ボリビアリスザル、コモンマーモセット、アカカンガルーに赤ちゃんが生まれています。

よろしくね! 仲間入りした動物たち



アメリカビーバー (1月2日)

アメリカビーバー

10月10日に東武動物公園からアメリカビーバー、ルトがチャチャのお婿さんとして来園しました。検疫も終わり、チャチャとお見合いをしています。同居がうまくいきかわいい赤ちゃんが見られるといいですね。



スバーバルライチョウ (11月29日)

スバーバルライチョウ

11月29日、いしかわ動物園からメスのスバーバルライチョウの「まめこ」がやって来ました。長旅の疲れか来園後少し体調を崩しましたが、今ではすっかり元気です。オスの白とお見合い後、繁殖に取り組みます。

元気でね! 大森山を後にした動物たち



左からGO、イチロウ、ロクイチ (10月30日)

ライオン

2018年9月に生まれたライオンの4つ子。一足先に3月にメスの「なお」が仙台市八木山動物公園に旅立ちましたが、11月にオスの3頭も新天地へと旅立ちました。イチロウとロクイチは那須サファリパークへ、GOは宇都宮動物園です。みんな元気でね!

このほか、シロフクロウのヒナ4羽とケツメリクガメが他の動物園に旅立ちました。

訃報 忘れないよ...



くま

くま (プレーリードッグ)

くまは2013年に熊本市動植物園からやって来ました。動物病院のお世話になることが多いくまでしたが、お姉さん「もっと」の子ども達をもっとと協力して育てました。



つきみ

つきみ (ハクビシン)

1999年に大森山動物園で生まれました。つきみは人の手で育てられたため、飼育担当者に馴れやすく、また、他のハクビシンに対しても動じることのない立派なおスでした。20歳まで頑張りました。

この他、フンボルトペンギン、ミーアキャット、ヨツユビハリネズミ等が死亡しています。

◎飼育動物数 2019年12月末現在

哺乳類	鳥類	爬虫類	両生類	魚類	無脊椎	合計
52種	26種	12種	3種	3種	1種	97種
360点	155点	24点	5点	24点	23点	591点

Greeting

いのちや野生に思いを広げられる動物園に

園長 小松 守

北国の動物園にも春がやってきた。お日様から力をもらい、人と同じようにウキウキする動物は、見る人を楽しませ、元気も与えてくれる。人も動物も等しくお日様の力、自然に生かされているのだろう。

今の時代、社会はどこかいのちへのいたわりや思いやりが薄れ、あるいは自然環境の変化は動物たちをも生きにくくさせ、人と野生動物の関係も微妙に変化しはじめている。異なる二つの事象だが、人の人に対する、あるいは自然や動物に対する愛着の弱まりが根っこにあるのかもしれない。いのちや自然をちゃんと見つめ、ふれあい、理解する機会が少なくなっているところに問題の一つがあるのだろうか。

動物園という存在を改めて考えてみた。これらの問題に動物園が直接的に関わることはできないだろうが、人は動物を目の前にし、自分と同じいのちを感じ、思うだろうし、動物

が生きる野生へと意識を広げるきっかけづくりにはなれるだろう。

大森山では今年末の完成予定でサル舎の再整備が進められている。隣接するチンパンジー展示と併せ、サルたちとの新しい出会いで、いのちの大切さや野生にも思いを広げられるような発信を進めてみたいものだ。



整備が進む新サル舎

エンリッチメント大賞2019 大賞(総合評価賞)受賞

飼育展示担当 主席主査 柴田 典弘

NPO法人市民ZOOネットワークが主催し、動物の暮らしをより豊かにするための優れた取り組みに対して贈られる「エンリッチメント大賞2019」で、当園のトナカイ飼育の取り組み「トナカイの放牧飼育を含むエンリッチメント」が大賞(総合評価賞)を受賞しました。これまで長期に渡ってトナカイ飼育が抱えてきた暑さとサシバエへの対策や、歯の摩耗を予防するためのエサの追求、さらには水辺での放牧をチームで研究し、発展させ続けてきたことが評価されての受賞となりました。

2019年12月7日に東京大学で同賞の授賞式が行われ、当園か

ら私と牛越の2名が出席しました。秋田をはじめ、全国各地からたくさんの方が授賞式に集まり、立ち見が出るほどの熱気の中で、受賞園館による記念講演やトークセッション等を行い、大変な盛り上がりとなりました。

今回の受賞は、2013年に「キリンのための飼育管理」で初受賞以来となる2度目の快挙です。これからは、エンリッチメント大賞を2度受賞した動物園の飼育技術者として、動物のより良い飼育のみならず、幸せを追求することにより、来園者の心も豊かになる動物園を目指し、新たな挑戦を続けていきたいと思っています。



写真前列右から牛越、柴田



全天候型の新しいサル舎を建設中

施設担当 主席主査 土佐 友二

チンパンジー展示場向かいにあったサル舎は、ワオキツネザルやエリマキキツネザル、アビシニアコロブス、ブラッサグエノンなど中型のサルを展示していました。この施設は、1973年に大森山動物園が現在の場所へ移転したときに建てられた最も古い施設の一つで、築46年が経過し老朽化が進んでいました。

大森山動物園では、施設の整備計画に基づき観覧者、動物、飼育員の安全確保とサル本来の生態が観察できる施設となるよう、新しいサル舎を建設することにしました。

従来のサル舎は屋外からの観察だけでしたが、新サル舎は屋内に休憩コーナーやトイレも完備し、雨の日や冬期間も屋内でも休憩しながら観覧できる全天候型の施設になります(写真1)。ワオキツネザルの屋外展示場ではサルへの環境への適応を見なが



写真1: 屋内休憩スペース



写真2: 観覧者も入れる屋外展示場

ら、観覧者がワオキツネザルと同じ空間で観察できるような施設を目指します(写真2)。

また、新サル舎の特徴として、屋内、屋外、屋上などさまざまな視点からサルの行動を観察できるほか、となりのチンパンジー展示場と屋上を橋でつなげ、来園者の行き来ができるようになります(写真3)。

新サル舎の建設工事は、2019年10月から2020年秋までの約1年間の予定です。工事完成後に動物病院などで仮住まいをしているサル達を新居へ移動して環境に慣らした後、2020年度中のオープンを予定しています。

オープン後には、新しい展示場で自由に動き回るサル達をさまざまな角度からご覧いただきたいと思います。



写真3: 新サル舎全景(手前の白い建物がチンパンジー展示場)

2年目を迎えた「大森山アートプロジェクト」

企画広報担当 副参事 吉田 淳一

大森山動物園(以下、動物園)と秋田公立美術大学(以下、美大)による「大森山アートプロジェクト」(以下、アートプロジェクト)が2年目を迎えました。

2019年度のアートプロジェクトは、前年同様に美大生のアイデアによる作品(写真1)のほか、彫刻作家でもある美大教員・皆川嘉博先生の作品(写真2)も加わり見応えが増したほか、これまで美大生・同大附属高等学院生により行われてきた壁画制作に来園者にも参加してもらい、動物園での楽しい思い出を残すことができました(写真3)。

また、動物園と隣接する大森山公園彫刻の森では、彫刻作品の清掃や再生の活動(写真4)が行われたほか、新たに杉木立と自然素材を活用した「あそび×まなびのひろば 杉迷路」(写真5)も開催されました。

また、ワークショップ「Zoo de 工作」(写真6)の他、新企画として色をテーマとした尾登誠一教授のトークイベント(写真7)は、動物園を飛び出して地元の新屋地域や中心市街地の秋田駅周辺でも開催されました。

今後もアートと動物によるコラボレーションの可能性を広げ、来園者だけでなく、多くの人に動物園を楽しんでもらえるプロジェクトを目指していきます。



写真1:作品「親子で学ぶ大森山動物園」



写真2:作品「リヒト(Licht)」



写真3:壁画「HEART-FULL」の制作



写真4:彫刻作品「海」の塗装



写真5:あそび×まなびのひろば 杉迷路



写真6:Zoo de 工作



写真7:トークイベント「色をたのしむ」

大森山 もりもり コンテスト

2019年の通常開園期間に、写真共有アプリケーション Instagramに「#大森山もりコン」のハッシュタグをつけて投稿していただいた作品の中から、大森山動物園スタッフの投票により6枚を選出しました。

今回は、見るとほっこり温かい気持ちになるような動物たちの姿を捉えた作品が多く選出されています。どうぞご覧ください。

好奇心旺盛でやんちゃそうな双子の表情と、母親の優しい表情が印象的な1枚です。



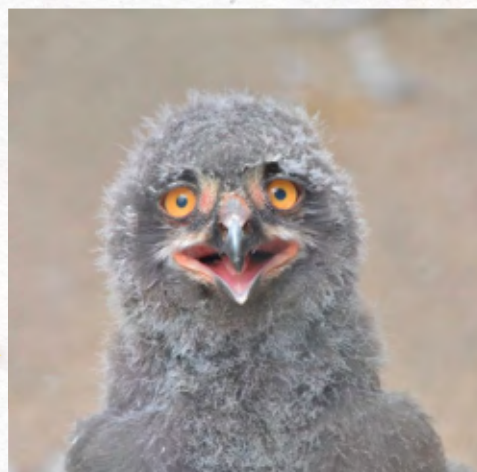
@r_bv_animal_photoさん マーコール

この凹みは顎を収めるためにあったのかと思うほどぴったり。あどけない寝顔と太い前脚に癒やされますね。



@n_hasuoさん ライオンの子ども

シロフクロウのヒナは灰色の身体で黄色い目が印象的。この時期だからこそ見られる姿が収められています。



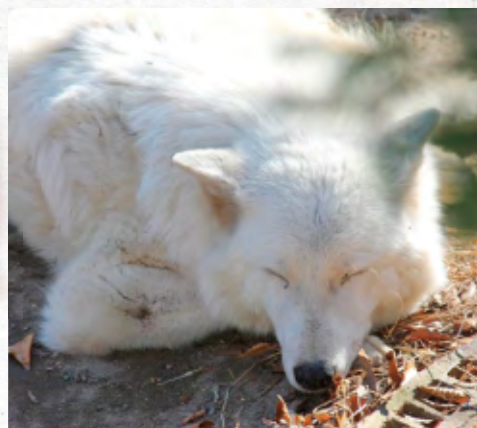
@obentosanさん シロフクロウのヒナ

フラミンゴが向かいあってできるハートマーク♥ ハートになる一瞬がとてもキレイに収められていて感動しました。



@t.y.d.ayaさん フラミンゴ

温かい日差しと、気持ちよさそうに眠るジュディーの真っ白な毛並みがとてもキレイです。



@maki_cy25さん シンリンオオカミ

本誌への掲載作品以外にも、Instagramには約800作品が投稿されていますので、ハッシュタグ「#大森山もりコン」を、ぜひ検索してみてください。
期間中、たくさんの投稿をしていただきありがとうございました！

report. 1

カサンドラが献身的に子育て中

飼育展示担当 奥山 麻裕子

9月29日の早朝、カサンドラが4頭の仔を出産しました。カサンドラは2019年2月にも4頭の仔を出産しており、今回が2度目の出産になります。1度目の出産は、カサンドラが初めての出産で子育てが未経験だったことや、仔が未成熟の状態で作られたこともあり、生まれて数日で衰弱死してしまいました。

今回は2度目の出産のため、カサンドラは出産直後から仔にしっかりと授乳を行っていました。しかし、翌日になると4頭の体の大きさに明らかな差があることに気がつきました。体が大きな個体は積極的に母親の乳首に吸い付いて母乳を飲んでいるのですが、小さな個体は母親から離れて産箱の隅でじっと動かずに過ごしている時間が多いことが観察でわかりました。仔によって授乳量が全く違



●授乳の様子(10月9日)



●4頭が順調に成長中(12月18日)

うのか、体格差が日に日に大きくなり、小さい仔がいつ衰弱して力尽きてしまうのか、最初の頃は不安な毎日を過ごしましたが、カサンドラの休まずに行われる献身的な授乳により少しずつ体格差が縮まってきました。

生後3か月を迎えた12月下旬には全頭が順調に成長し、一番小さかった仔も見違えるほどの大きさになりました。肉を食べ始めてから歯や噛む力も強くなり「バキバキ」と音を立てながら母のカサンドラと同じように肉と一緒に骨も噛み砕いて飲み込むようになりました。今後も、4頭が健康に立ちどめる日まで、しっかりと飼育管理をしていきたいと思っています。

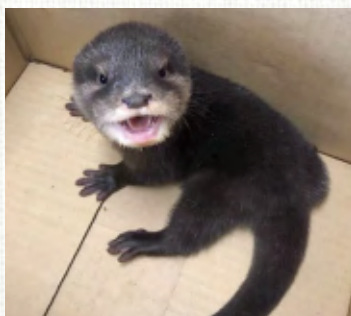
report. 2

コツメカワウソ夫婦の子育て奮闘記

飼育展示担当 櫻庭 美千代

8月18日、メスのわらびとオスのキトラの間に待望の赤ちゃん1頭が無事に生まれました。親にとっても当園にとっても初の出産です。

人慣れしているように見えるカワウソですが、産後はかなり神経質になります。そのため、展示をしばらくお休みし、親が落ち着くまで屋内展



●だまこ(10月9日)

示場の清掃も控え、1日1度の給餌作業も静かに素早く済ませました。授乳がうまくできているか、2頭でちゃんと世話をしているか心配な毎日でした。

生後数日、泣く仔を前に親2頭で慌てていると、キトラがまだ目も開いていない仔にアジを差し出してしまい「この先大丈夫かなあ?」と思いながら見ていましたが、日に日に2頭とも上手に世話をするようになりました。

生後1か月頃には仔の目も開き、少しずつ行動範囲が広がりました。10月に性別チェックをした結果、仔はオスとわかり、名前は秋田

の郷土料理のひとつ「だまこ鍋」から「だまこ」としました。しっかり者のわらびは、だまこが色々な物に興味を示すと「だめだめ!」と制限します。予想通りの心配性です。

反対にドジなイメージのあるキトラは、だまこが扉を開けられずにいると前肢で押し開けてサポートをしていました。彼は別人?別獺?のように変わりました。1月現在3頭はオス組(キトラ、だまこ)とメス組(わらび)と部屋を分けて暮らしています。これからも彼らは成長し、色んな姿を見せてくれると思います。ぜひ、会いに来てください。



●左からキトラ、だまこ、わらび(11月9日)

新たにカンガルーひろばが完成

飼育展示担当 主席主査 中井 朱

10月10日、ふれあいランドのポニー展示場の空きスペースに「カンガルーひろば」(以下、ひろば)が完成しました。ひろばの設置は飼育員の提案によるもので、来園者の動線から離れたふれあいランド奥の魅力アップと、従来の展示場が繁殖により手狭になったことによるカンガルー同士のトラブルを防止することが目的です。

春から夏にかけてひろばの設計などを協議し、約2か月の工事期間後、動物の脱出やケガ防止のための手直しなどを経て、メス9頭をふれあいランドのポニー展示場隣に移動しました(移動後にメスの袋に赤ちゃんがいたことがわかり11頭になりました)。

引越し作業はスムーズに終わりホッとしたのもつかの間、翌日から行った展示訓練では、慣れない場所のためか、カンガルー達



●来園者との距離も近いです

はほとんどが室内から外に出ようとしませんでした。飼育員がエサで誘導すると、肝の据わった1頭が外に出たのを皮切りに、他の個体も少しずつ外に出て下草を食べ始めました。同月12日からの三連休にはお客様もひろばの中に入られるよう開放し、お客様にカンガルーを間近で見てもらいました。

寒さが苦手なカンガルーなので、冬期間は外に出る回数が減ると思いますが、春からの通常開園では、ひろばで元気に動き回るカンガルーたちを見に来てください。



●広々としたカンガルーひろば

動物病院から

トレーニングは積み重ねが重要

獣医師 湯澤 菜穂子

みなさんは動物園で飼育員がアフリカゾウに号令をかけている場面を見たことがあるかもしれません。それは、体が大きくて非常に力の強いゾウの健康管理を安全に行うために毎日行っているトレーニングの様子です。仙台市八木山動物公園からやって来たメスのリリーも健康管理にとって大切な肢のケアや、採血、採尿等を行っています。今回はリリーの採血のお話をします。

リリーは週に1回採血をして、血液検査による健康状態のチェックや、繁殖に関わるホルモンの測定をしています。やり方は、リリーに柵の横で伏せの体勢になってもらい、耳の裏側の血管に針を刺して採血をします。当然、動物も人と同じように針を刺されると痛いので、定期的な採血ができるようになるにはリリーから信頼してもらえるよう地道な訓練が必要です。

この夏、リリーの機嫌を損ねてしまったのか、これまで毎週行っていた採血を嫌がるようになりました。リリーに協力してもらえないと採血はできないので、また一から少しずつトレーニングを積み重ねていくことになりました。

トレーニングの手順としては、獣医師がリリーの耳を指で触るだけ、痛くないように先端を丸めた針を当てるだけ、軽くつつくだけ、と少しずつ段階を踏んで進め、2か月かけてようやく以前のように毎週採血ができるようになりました。

採血のトレーニングに限らず、動物たちの健康を守るためには、獣医師も一日一日の積み重ねが大切だと実感しました。



耳の裏側から採血を行います



採血前の「伏せ」のトレーニング

9/28 塩曳潟水生生物調査

秋田水生生物保全協会、県立新屋高等学校理科研究部の協力により、市民ボランティアを募集し、子ども17名、大人9名の計26名で調査しました。今回は、東北の日本海側の動物園と水族館が協力して活動する3園館連携の一環で、男鹿水族館GAOと鶴岡市加茂水族館の担当者も

参加し、ゼニタナゴは定置網で7尾採捕できました。参加者からは「自分で網を使って魚を捕ったことが楽しかった」という感想が多く、希少種ゼニタナゴの存在を実際に目で見て触って体験してもらうことで塩曳潟の大切さを実感してもらうことができました。



●定置網による調査



●希少種ゼニタナゴ



どうぶつパレード

10/6 秋の動物ふれあいフェスティバル

秋晴れの中開催し、人気のどうぶつパレードではラマやペンギンが歩く様子を写真で撮るたくさんのお客様でにぎわいました。動物舎裏側見学では参加者は普段入れないクマ、キリン、ゾウ、チンパンジーの展示場に入り、動物の目線で展示場を見て回ったり動物のために作られた遊具で遊んだりして楽しんでもらいました。



●クマ展示場の中を体験

10/20
日

どうぶつサイエンス

自然科学学習館との共催で「どうぶつサイエンス～ネズミのなかまのひみつをさがろう～」を開催し、子ども13名、保護者7名の計20名が参加しました。午前中は自然科学学習館でげっ歯類について学習し、午後からは動物園で動物を解説つきで観察しながら学習しました。参加者からは、大きさや形が多種多様なネズミのなかまのことを詳しく知ることができたと好評でした。



●ヤマアラシの針の鋭さを解説

11/23
土祝

11/24
日

いい夫婦の日イベント

11月22日のいい夫婦の日にちなみ、23日と24日にイベントを開催しました。ペアの動物たちのエピソードを交えたどうぶつ解説やカップル限定の無料エサやり体験などを



楽しんでもらいました。動物との記念撮影会では、普段口に出して言えない感謝の言葉等をメッセージボードに書いてふたりの絆を確かめてもらいました。



12/1
日

さよなら感謝祭

お客様と動物たちへの感謝を込めて「さよなら感謝祭」を開催しました。セレモニーでは、高木名誉園長や動物園に協力いただいている皆様が出席し、亡くなったラクダの「楽楽」やトナカイの「コマチ」などに慰霊の献花を行い、浜田小学校による慰霊の作文が朗読されました。園内では、来年の干支にちなんでカピバラとの記念撮影会やクリスマスリース作りなどが開催され、開園最終日も大勢の来園者でにぎわいました。



●カピバラと記念撮影



●クリスマスリース作り

今後のイベント

3/20
金祝

11/30
月

2020年通常開園スタート

※期間中は無休

飼育日誌



(2019年8月1日～12月31日)

8/6	トナカイ	放牧個体入れ替え(雁来♀・春来♂→ルドルフ♂・元気♂)全頭:暑さの影響が強い一定間隔での冷却が必要となっている。
	ライオン	トモ♀ 採食時、子に対して威嚇。
8/8	ツキノワグマ	忌避剤試験(秋田大学)。
8/12	アムールトラ	カサンドラ♀ 乳首が目立ってきたように見える。
8/13	チンパンジー	ボンタ♂ 夕方、通路下に座り込み動かなかったため、今日も室内展示場に納容する。
8/14	カピバラ	マカロニ♂ 夜ZOOのまんまタイム後に外展示場の台から地面に落下と来園者の通報。ケガ等無し。夜に給餌したリンゴの食い付きも良好。門歯も折れていない様子。
8/16	インドクジャク	人工雛3羽移動。旧病院→クジャク展示場内小屋
8/17	コモンマーモセット	アズキ♀ 体重減で個別管理が必要のため群れから分離
8/18	アフリカタテガミヤマアラシ	チョモ♀ 初放飼、ハルマキ♂ 勃起。
8/23	コツメカワウソ	子どもの鳴き声確認。監視カメラでも大きくなっているのがわかる。巣内の麻袋を交換しようとしたが♂♀に威嚇されたため中止。
8/24	フンボルトペンギン	右黒白♀ 翼帯が翼に食い込んでいたため、新しいものに交換。爪切り、脚裏チェック実施。
	キョン	左右紫:翼帯が1本食い込んでいます。明日交換予定。同居開始・夕方交尾確認(ノゾム♂×コム♀)
8/30	プレーリードッグ	くま♀ 投棄、顎から排膿。
9/10	ライオン	ロー♀ 展示場で左前肢、左後肢に跛行見られる。
9/12	アフリカゾウ	リリー♀ 採食拒否。
9/13	サンショクキムネオオハシ	夜間気温低下のためサッシ全閉、保温球1個点灯。
9/14	ホンドタヌキ	ポコ♀ 左後肢飛節部分に腫れあり。
	ラマ	園内散歩練習。
9/16	アフリカゾウ	だいすけ♂ 疝痛様症状あり。♀残餌多い。周回行動激しい。
	アフリカゾウ	だいすけ♂ 砂便確認、下剤内服。
9/17	レッサーパンダ	ひなた♂ 耳殻内に薄い怪我あり。かんだ♂に囁られた可能性あり。
9/18	カピバラ舎	カピバラ湯っこ試運転
9/19	アフリカゾウ	だいすけ♂ ペニス勃起行動を確認。
9/23	インドクジャク	雛2羽飛び回る。

9/24	アカコンゴウインコ	メレブ♀ 嘴調整
9/25	サル山	追い込みおよび個体識別作業
9/26	シバヤギ	シロ♀ 発情兆候の恋鳴き
9/30	チンパンジー	ジェーン♀ 痰が絡んだ苦しそうなお咳
10/1	トナカイ	雁来♀・春来♂を展示場へ戻した(放牧終了)
10/2	ケヅメリクガメ	ミコ♀ 外展示場で頻りに深い穴掘り。産卵が近いかも
10/3	チンパンジー	同居を中止していた♂J太郎と♂コタロウを寝室No.2とNo.3で数時間お見合い。
10/9	コツメカワウソ	仔 性別判定、体重測定(♂742g)
	アカカンガルー	メス・仔群をふれあいカンガルーひろばに引っ越し
10/11	インコ舎	ガラスサッシ設置作業
10/12	アフリカゾウ	遠赤外線ヒーターON。
10/15	ミーアキャット	1頭がサル舎工事事務所を警戒。
10/18	アフリカゾウ	♂出舎拒否原因調査開始(1週間予定)。
10/20	シフゾウ	数年前から徐々に大きくなっていった左目上の腫瘤落ちていた。右目上の腫瘤も落ちそう。
10/21	アムールトラ	仔 体重チェック。各1kg位増加。
10/30	カナダヤマアラシ	♂糞検査:蛭虫、投棄。
10/31	シュバシコウ	鳥インフルエンザ対策で越冬舎へ移動。
11/6	ニホンアナグマ	朝、動きが少し緩慢。11時頃になると改善される。寒さの影響だと思われるが、要注意。
	コツメカワウソ	だまこ♀ プール底に降り上がれなくなる(麻袋で捕獲し収容)
11/9	トナカイ	ルイ♂ 右角落ちた。両角落下。
11/12	アビシニアコロブス	レイア♀ しっかり子を抱えている。授乳も確認。
	コーンスネーク	シャネル 夕方、脱皮確認。
11/13	トナカイ	元気♂ 角切り(無保定・ノコギリ)
		ルドルフ♂ 左角落角。
11/17	ミシシッピアカミミガメ	カメナシ 冬眠開始。 シズカ♀ 冬眠開始。
11/20	アムールトラ	仔 ワクチン接種
	アカカンガルー	サキコ♀ 15:15頃、キーパー通路経由しポニー展示場から園路に脱走。職員がネットで捕獲。カンガルー広場内に放飼後収容。人的被害と動物負傷なし。
11/27	アムールトラ	仔 ブロイラーを採食しているのを確認。
12/4	コツメカワウソ	♂2頭と♀を分離
	アビシニアコロブス	子どもの性別確認。
12/7	イヌワシ	イヌワシ保全棟(両サイド2箇所)冬囲い。イヌワシ第1ペア舎(天井網)銀杏の実除去作業(土嚢袋9袋)。
12/8	ケヅメリクガメ	ミコ♀ 産卵。
12/9	レッドイグアナ	イグ♀ 採食不良。抗生剤投与できず。明日まで経過観察。
	ユキヒョウ	リヒト♂ 採食7回目。
12/13	アメリカビーバー	ルト♂ 収容時入せず。
12/15	ベニコンゴウインコ	餌を嘴同士で受け渡す求愛行動あり。

お客さまの声



- 8/10 養護学校2年生(高校)の息子が毎年楽しみにしている夜の動物園です。来年も楽しみにしています。
- 8/12 子どもが生まれてから、年間パスポートを毎年購入してきています!!夜の動物園やどうぶつパレード大好きです!!
- 9/21 子どもがひよこやモルモットをさわるのが大好きようです。ふれあい体験には喜んで参加しています。
- 10/6 動物フェスティバル、動物パレードが面白かった。一つひとつの動物の紹介があり、とても良かった。ありがとうございます!!
- 10/26 50代くらいの女性が開園直後から閉園間際まで写真撮影をしていました。話しかけたところ、笑顔で「神奈川県から初めて大森山に来て、明日も来園する。」とのことでした。
- 11/2 40年ぶりの訪問でしたが、植物の配置、手入れ、遊具の形状、色彩感等々、すばらしく感動。大人限定の鑑賞ツアーなども面白いのでは?とても楽しい時間を過ごしました。ありがとうございます
- 11/3 ライオンのマンゴー ♀が大きな声で吠えていて迫力があつた。しかも口が臭かった。
- 12/1 ひとりでさみしかったから心の癒やしを求めに来ました。元気が出ました。

かたはた通信



新サル舎工事のため、10月下旬に4種類40頭のサル達が動物病院とサル山管理棟に引っ越ししました。空っぽになったサル舎を見て「がらんと寂しいなあ」と感傷に浸る間もなく解体作業が始まり、旧サル舎は更地になってしまいました。完成予想図で見た新サル舎を今はいまイメージできませんが、工事が進むにつれてワクワク感が高まっていくことでしょう。お客様にはご不便をおかけしますが、新サル舎の完成をお楽しみに!(三浦)

発行/秋田市大森山動物園

〒010-1654 秋田市浜田字湯端154番地 TEL 018-828-5508 FAX 018-828-5509
E-mail ro-inzo@city.akita.lg.jp デザイン・印刷/秋田活版印刷株式会社

●動物取扱業者 秋田市長 穂積 志 ●事業所及び所在地 秋田市大森山動物園 秋田市浜田字湯端154番地
●登録に係る動物取扱業の種別/販売:動-3-41 貸出し:動-3-42 展示:動-3-43
●登録の年月日/2007年6月1日 ●有効期間の末日/2022年7月31日 ●動物取扱責任者/三浦 匡哉、中井 朱、高橋 拓

大森山動物園

検索

<https://www.city.akita.lg.jp/zoo/index.html>